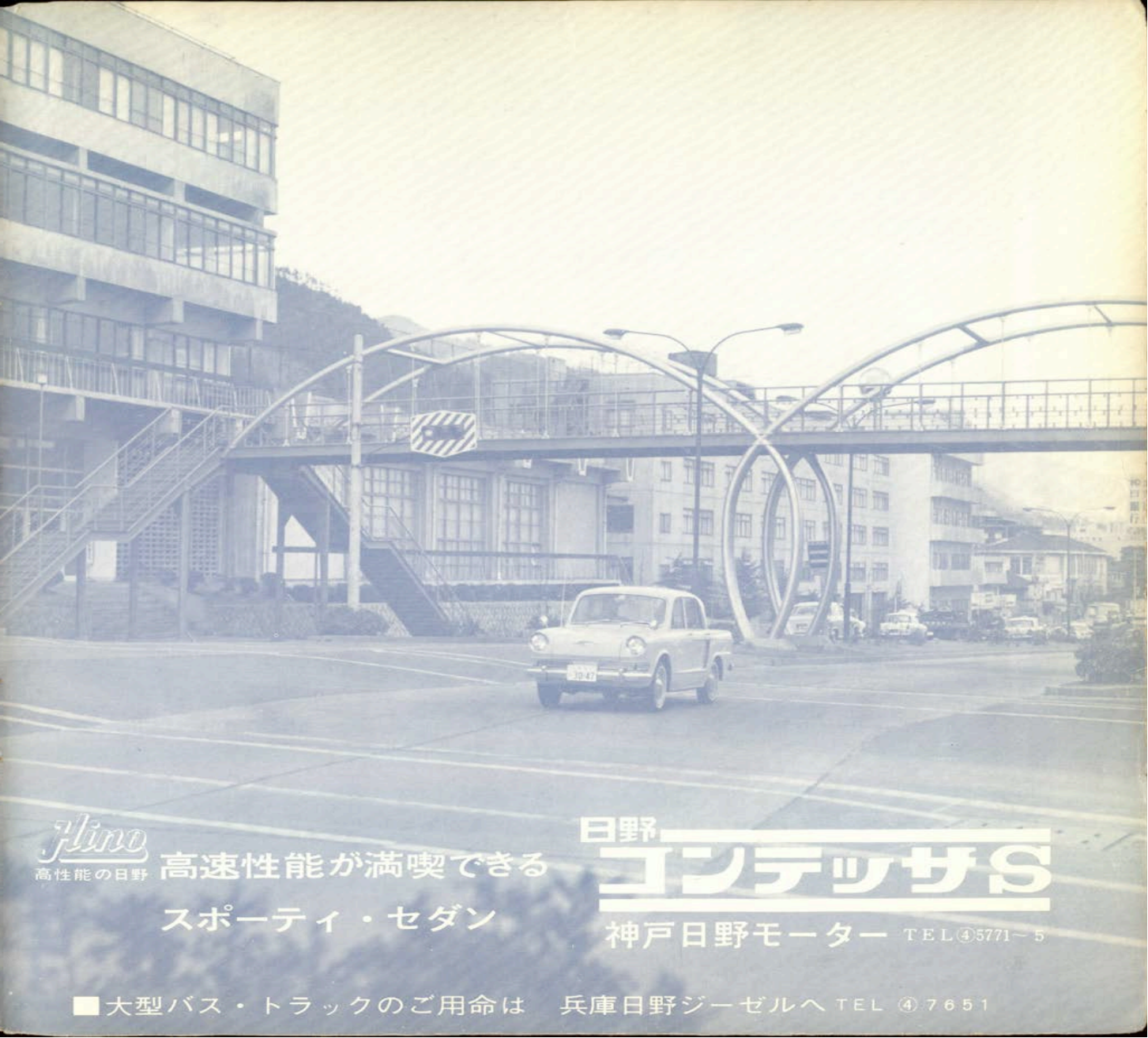
月刊「神戸っ子」昭和39年4月10日印刷 通巻37号　昭和39年4月10日発行　毎月1回10日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子 4月号

monthly magazine kobekko april 1964 no, 37


Hino
高性能の日野
高速性能が満喫できる
スポーティ・セダン
日野
コンテッサS
神戸日野モーター TEL④5771－5
■大型バス・トラックのご用命は　兵庫日野ジーゼルへ TEL ④7651

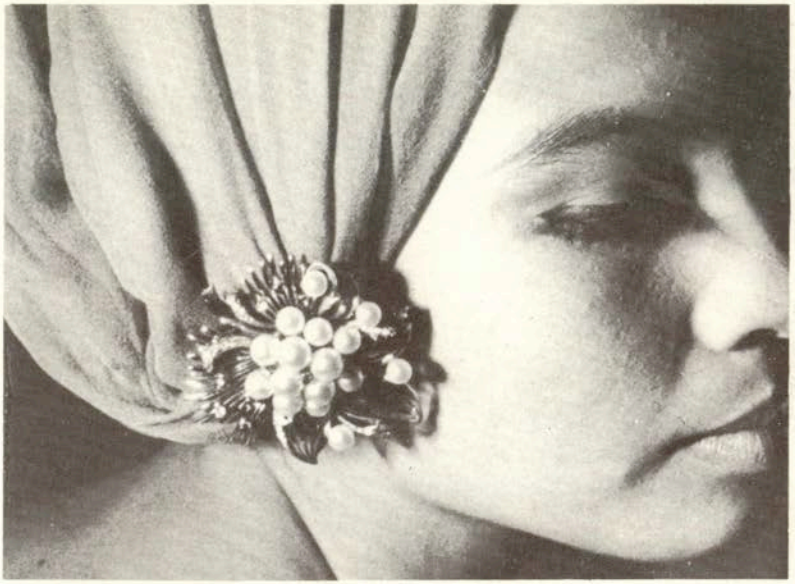
これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です

Mikimoto Pearls



永遠の気品、ミキモトパール。みがきぬかれた細工技術と香り高い芸術性は、海外でも高く評価されています。ミキモトは権威と信望を集めた世界の宝石店です。

ミキモトパール 御木本真珠店

神戸店＝三宮・神戸国際会館　Tel. 22－0062
大阪店＝堂島・新大ビル　Tel. 361－0220

われら神戸っ子

3

木村貴多子

美術造花
貴多美術造花教室

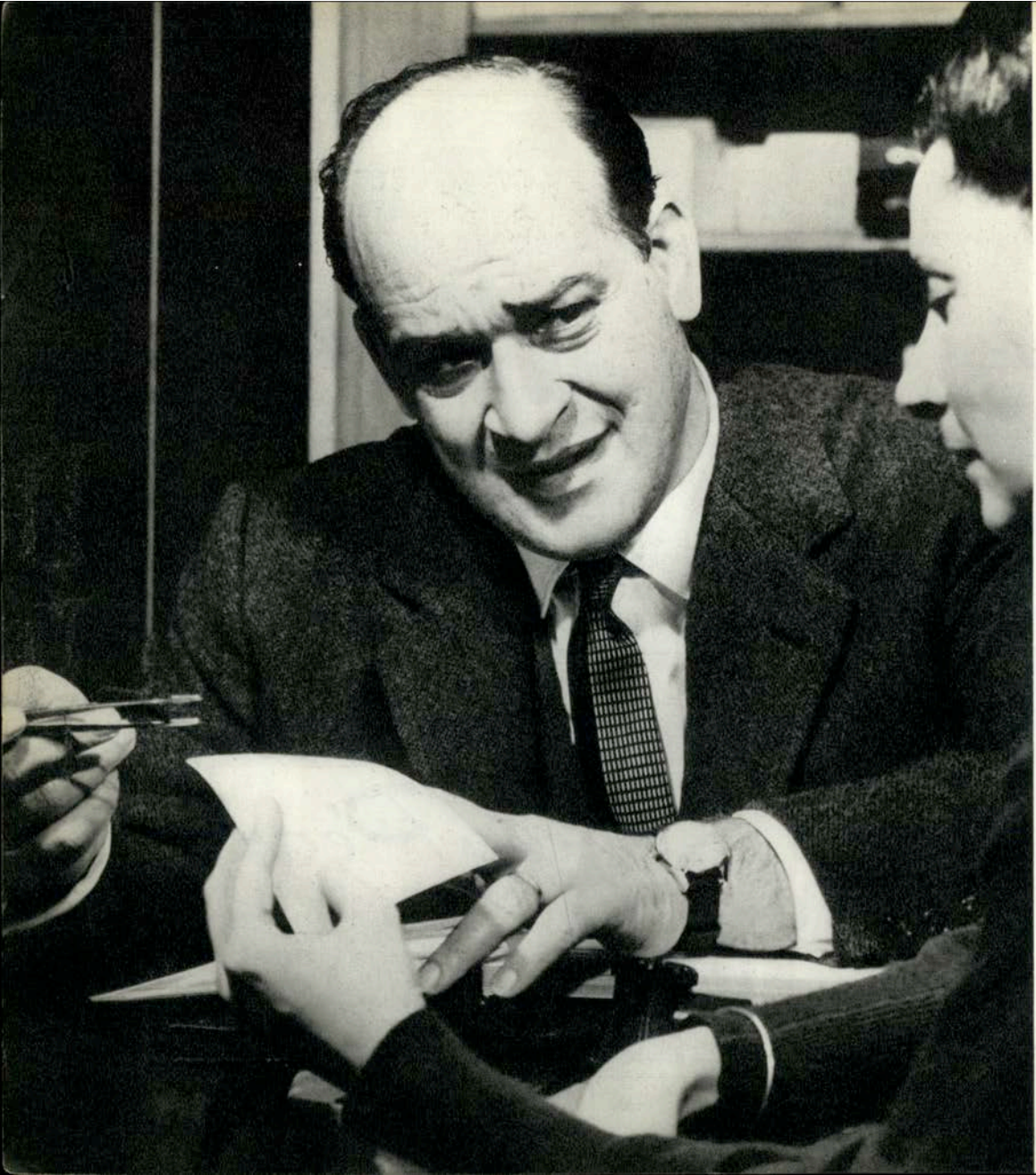
ここは、年中花に埋もれている。本物とは寸分も変らない写実的なものから幻想的なものでも美しい花が自在に造られる。とにかく素晴らしい造花だ。百貨店や高級婦人帽に飾られているのもこの花である。美智子妃殿下もご愛用だと言う。「今まで、個性的ないい造花がなかったものですから、思い切って創めました。花びらの一枚、一枚を染めて行くのです」と木村さんは話される。

撮影／西村雅司

ダイヤモンド情報

世界のダイヤ会社を統制する、セントラル・セリング・オーガニゼーション《中央販売機構・ロンドン》が伝える最近のダイヤ情報「装飾用ダイヤの値上りは業界に大きな転機をもたらすだろう。既に2月1日に10％の値上りがあったが需要は漸増して、欧州、米国極東において、より増大を示し流通価格が市場情勢に適合していないため4月1日に再度10％の値上りが発表されている。需要に応じて生産増大に努力するが充分の供給は期待できないだろう」《田島商事取引先・ベルギーCYRIL・J・GINDER社提供》

Tajima
宝飾店 タジマ
元町2・TEL③0387・2552



われら神戸っ子

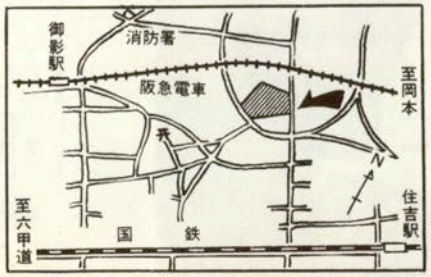
4

セ・ア・テソリエロ

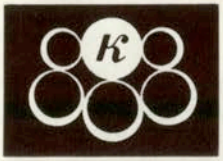
アルゼンチン貿易商
切手蒐集家

セ・ア・テソリエロさんはアルゼンチンの貿易商である。切手の蒐集は小学校の頃初めたのが病みつきになっていままで専念していると言われる。厖大な蒐集であるそれが綺麗に分類され保存されている。切手蒐集用の部屋がチャンと別にある。テソリエロさんは英国領のものがお得意、特にこの蒐集には美しいテソリエロ夫人がよきアシスタントとして協力されている。

撮影／西村雅司



Kaneko Pearls



金子真珠

輸出専門の金子真珠の新社屋が六甲山麓の住宅地御影に竣工いたしました。絶対の信頼をいたゞいている金子の真珠を生産地から直接皆様にご販売出来ます　どうぞご遠慮なくお立寄下さい。

神戸市東灘区住吉町堂ノ本 1824
TEL (85) 2628・9422

4月目次

□ 1 SECOND COVER／絵・中西　勝
□ 3 グラビヤ／われら神戸っ子
③木村貴多子　④セ・ア・テソリエロ
□ 8 わたしの意見／鈴木二郎
□ 10 随想四題／春の観光船・山名　昇
さようなら臨港線の蒸気機関車・中村千鶴子
インスブルクの旅情・川上忠司
入試地獄に思う・古林喜楽
□ 15 **連載随想第12回／山草の色・白川　渥**
□ 17 **連載随想第8回／牧歌・阪本　勝**
□ 21 神戸っ子放談／小野一夫
□ 24 経済ポケットジャーナル
□ 27 わたしは編集長(1)／西村まさ
□ 32 **映画のこと手当り次第②／淀川長治**
□ 34 香港情報／小川丑郎
□ 37 季節のモード／シルクのおしゃれ・福富芳美
□ 43 暮しのバラエティ No. 2／ハイカラな欧風家具
□ 47 **座談会／神戸と舶来品・ゲスト　竹中　郁**
元町バザー・エスターニュートン・サノヘ・柴田商事
□ 53 ピンクコーナー(T)
□ 56 神戸遊戯誌8／ビリアード②・青木重雄
□ 58 神戸うまいもん巡礼 No. 20／赤尾兜子
□ 60 紳士入門⑭／ホスピタル紳士・竹田洋太郎
□ 62 ポケットジャーナル
□ 64 KOBEKKO SHOPPING GUIDE
□ 70 **連載第12回／神戸夫人・武田繁太郎**
□ 76 グラビヤ／春の観光船・カメラ　緒方しげを

表紙・小磯良平／カメラ・米田定蔵／デザイン・橘正三

高級紳士服地
リファイン ニッケ テックス
竹馬産業株式会社
神戸市生田区元町通3丁目453
TEL. (39) 6651(代表)

＊わたしの意見

前向きになって ほしい神戸文化

鈴木二郎
朝日新聞神戸支局長

――神戸に来られて2年ほどと伺いましたが、神戸でのお仕事はいかがですか――

「気がついてみると土建神戸――河野一郎実力大臣につながる原口神戸土建行政の目新らしさ――地元意識にたてば、こんなことでしょうが、やはり仕事のホンスジは事件モノということになります。雨が降れば造成宅地のガケくずれ、風が吹けば船舶の遭難事故、歳末ともなれば連鎖反応的な不審火の続発。神戸勤めの新聞記者はカンが鋭くシリが軽く充分な体力をもって、極端な言い方をすれば居眠り程度でいつも待機姿勢でなければやっていけません。気の毒だと思います。全くご苦労さんです。」

――戦前の神戸をよくご存知だそうですが、いまの神戸文化はいかがでしょう――

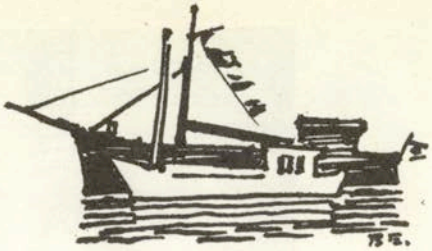
「KR&ACが敏馬だったかにあったころ、東遊園地ではいつもサッカーをやっていて、元町はしっとり落着いて適当に人通りがあり、青い目の外人さんがふんだんにいて、聚楽館がパラマウント映画をやっていたころ、そのころだけをひたすら思い出すよすがに、フロインドリーヴの食パンを食べ、神戸ビーフにしがみついている感じで……。

神戸文化ってもっと前向きになってほしいと思います。」

――神戸のいいところと言えばどんなことですか――

「やはり土建神戸の着想と規模。しかし、どうせ消える運命にしても三宮のジャンジャン市場はこたえられんところ。モノのないころ、ここには何でもある。ヤミ市がこうなったとこや、釜ケ崎とは違う、という自信のムードの中でのむ安酒、神戸市民より外国のミナト町で有名なのではないかと思われるような艦隊入港、観光船入港のころの〝ショー喫茶〟――こいつはよそにはなさそうだ。友人を案内するコースにはこの二つと組合わせて北野クラブとキングスアームス、それにどこかの全ストということにしています。イヤおはずかしい。」

□随想四題□



カット・別車博資

春の観光船

山名　昇

澄んだ春の上空に、爆音をとどろかせる歓迎の飛行機。と、見るまに白い点は紀伊水道の沖合いから、扇港神戸へスマートな船姿を見せた。白亜の客船チューサン号（二四、〇〇〇トン）が昭和二十七年四月に戦後初めて神戸へ入港した時のことである。

四突に入ったチューサン号は、船客課に勤める私には初めての観光客のお出迎えだった。見物に集まった神戸っ子たちもエレベーターの前で分厚く美しい絨毯に思わず下駄をぬいだ人がいたほどだ。

ロンドンからの定期船復活第一号である。キャプテン・ファーストは風格ある船長で、彼の名声をしたって乗船を希望する人も多い。昨年、残念ながら神戸に入港できなかった巨船カンベラ号（四五、二七〇トン）に、キャプテン・ファーストが乗船されたが、彼の人徳をしのぶお客様の相当数がカンベラ号にいたと聞いている。元巨人軍の水原監督が東映に移ると巨人ファン変じて東映ファンに変る類である。

それから今年で十二年目、今や神戸港は春の観光シーズンを迎え、クングスホルム号、ロッテルダム号、オリアナ号、カロニア号など、神戸っ子になじみ深い船で満員の盛況である。

しかし、未だに観光客に文句をいわれるのが港の受入れ体制だ。せっかく船は入っても入管税関の手続きで思わぬ時間をつぶして終う。とかく未開国ほど手間どるそうだ。文化国日本の最大港神戸でもう少し簡素化して暖かく外来客を迎えるようにならぬものだろうかといつも思う。

サンフランシスコの税関などは、スムーズかつスピーディ、その上に、暖かいスマイル。これこそ乗陸第一歩の観光客には何よりのもてなしとして受取られる。お役所仕事で片づけてしまうことは、桜の国日本のイメージを第一印象でブッ壊すことになるのではないだろうか。ぜひ港の受入れ体制をもっと血の通ったものにしてほしいものだ。

船の旅は楽しい。船の中では皆が平等の友人になる。若い人程とけこむのは早くて、留学生などは二週間位の船旅で「オジサマ、オジサマわかんない、どうしよう！」と悲鳴をあげて飛んで来るのは二、三日だけ。たちまち、外人の中にとけこんでオイコラの間柄になってしまう。毎晩変るショーを楽しみ色んなマナーをその船旅で身につけられるのだ。これは大変なプラスで、直接飛行機で目的地に飛んだ学生に聞くと、その土地になれるまで船旅の連中とは二ケ月分の差があったと聞いた。いささか手前みそだが、これから外国へ行く人にぜひおすすめしたいのは「ゆきは船旅、帰りは飛行機」ということである。ことに若い人はどんどんこのケースで外国へ出て欲しい。それと「香港へ行ってスキヤキを食べた」などといばることはない訳で、恥をかいても外人の中へとけこまなくてはショウモナイ旅行になる。

長い船旅には、無限の海原と、無限の空があるだけだ。偉大な自然に包まれた船の中では、人と人との結び合いは素朴なふれあいと楽しさがあるのだ。

今年も、春の観光船を神戸港に迎え、長い海路を経てタラップを降りて来る世界の友に、思わず「ようこそ」と微笑が湧いて来るのである。自由化の線にそって大いにわれわれ日本人も外国にとび出し見聞を広め、世界の日本人として恥ずかしくない国民になりたいと思う。

（マッキンノン・マッケンジー　日本KK船客部）

さようなら

臨港線の蒸気機関車

中村千鶴子

私はむらさき色が大好きで、それは娘の頃から、今も紫にあこがれのような夢がある。五、六年前木曽の山奥にある父の故郷へ墓参に行った。紅葉の美しい秋の一日を、私はイタリヤ製のすみれ色の皮手袋に濃い紫のコートという、ご気嫌なスタイルで、岐阜駅から高山線に乗りかえて白川口で静かに入口の手すりを握って下車した。アッと驚いたことには手袋は真黒！口惜しがる私をホームに置いてローカル線の汽車ポッポは、黒煙をあげて走り去ったのだ。

六大都市の神戸にも、これに匹敵する臨港線というのがある。これは東灘貨物駅からメリケン波止場の前、関西汽船の乗り場などの各突堤を結び、湊川の貨物駅まで国道二号線にそって海岸通のビル街や住宅の真中を走っている貨物機関車である。カランカランと鐘を鳴らしてシュッポシュッポと黒煙をあげて悠々と走る格好は、西部劇さながら……。モクモクと黒煙たなびくあとは、神戸の美しい海も、空も、山も見えなくなるほどで、近辺のビルの人々や、主婦は煤煙に苦しめられ、苦情のたえまがない。ちょうど海岸通にあるオリエンタルホテルで、初々しい花嫁が祝詞に頬を染めている時、カランカラン、シュッポシュッポ、ゴーと憶面もなく窓の下を通過する。「あれは何ですかいナ」と招待客が驚いてききただされる。とんでもない名物だと、ついに私も市会で港湾局へ度々陳情して、決算には強引に国鉄へ交渉するように質問した。

二月二十二日、その委員会の途中で思いがけなく足を痛めていまだに床にふしている。ところが、ある朝、新聞に目を通して、ハッとした。「鐘の鳴る機関車と老国鉄マン」と云う見出しで、三月一日より機関車が姿を消すと言う記事が出ていた。

大正三年に蒸気機関車の第一号が誕生し、十年頃には全国に約二千台の機関車が活躍した。新しい車の登場にだんだんローカル線に転落し、神戸の臨港線では八台が働いていたそうだ。この汽笛一声の汽車が走ると、歩行者が小馬鹿にして悠々と歩くので危くて仕方がない。たまりかねてメガホンで「ソコのいてくれ！汽車ヤデ！」と怒鳴って通った。何とかならぬかと知恵をしぼった名案が、猫の鈴ならぬ汽車の鐘で、カランカランと神戸っ子に馴染深い音が初まったのだそうだ。この機関車の最后の日には、四十年間も運転に従事していた機関士さんや、神戸っ子が最後の鐘の音を聞くために沿線に並んで手を振って別れを惜しんだと記事の結びにある。私はまだ床の上で新しいジーゼルにはお目にかかっていないが、こんなエピソードも知らないで永年敵のように海岸線で出合う度に睨みつけて通ったことがおかしくなった。紫の手袋のうらみではないが、内田百閒氏は汽車の黒煙の匂が大好

きで、その懐しい匂をかぎにローカルを選んで旅に出られ、国鉄の電化をうらんでいられるとか…。

近づく初夏に、さわやかな海風を迎える沿線のビル街の表情は明るい。洗濯物の汚れる心配のない主婦の笑顔が見えるようである。けれども時代の波に去って行くミナトの蒸気機関車のカランカランという音の響きに懐しさと、いい知れぬ哀愁が不思議に心に残るのである。

（神戸市会議員）

インスブルックの旅情

川上忠司

冬季オリンピック視察団一行四十三名は、一月二十五日、日本を飛び立った。スケジュールの第一番目に組まれたローマオリンピックスタジアムを見学、施設の長所短所を現実に見究めてデーターをまとめたあと、明るさと歌で名高いナポリへ……。千九百年前、ベスビオス火山の爆発でたちまち廃墟となったポンペイは、折れた石柱の一本にも、踏みしめる階段の音にも華やかな昔の文化が偲ばれて去り難い気持ちだったが、予定のコース、オーストリヤ国インスブルック市に着く。

インスブルック市を中心とするチロル地方は三千米級の山なみが峰々を競って聳え立ち、横光利一氏の小説「旅愁」の一節に「窓から見えるところだけでも犀の肌のような樹のない石の高山の頂きから街の上まで氷河が流れておりていた。三方から垂れ流れたその氷河の狭い底辺に静かに寝るが如き小都会がこの町である」とある。

冬季オリンピック開催地インスブルックの会場風景

遠く数百年昔に建てられた「市の塔」に二シリング払って展望台に立つとノルトゲテの連山が眼前に押し迫ってきている。一瞬、六甲の山姿が瞼に浮んだ。六甲連山を背後に負う神戸とどこか共通点があるように思えた。我々の宿舎は、同市から約二十キロ離れた人口千二百人程度の寒村セルラインにある小さなホテルが当てられていた。ホテルは小さいが清潔で、人のよさそうな夫婦と美しい姉妹がいて、心からの歓待をされ、人種、民族をこえた人間的な温かさを強く感じた。一同は異国の地にいるのを忘れる想いがした。冬季オリンピックの成績は刻々日本に伝えられて、スケートは長久保選手の六位、フィギアで福原選手が五位だったがスキーは残念ながら振わずに終った。しかし、日本選手はよく頑張ったものである。

オリンピック選手村は、後日、労働者のアパートとして使用することを、DRルッカー市長は確約したらしい。しかるに同市の庁舎建物は第二次大戦のきず跡、弾痕が生々しく残っているにもかかわらず、補修さえされずにそのまま放置され、ひたすら市政の発展に精魂を傾け、上下一体となって市政中心主義を押し進めているのは羨ましい限りだと囁き合った。

道路の清潔縦の鍵は、歩道上に二間間隔に塵籠が設けられてあって、すべての歩行者は必ずこれに投入しているからであって、この点大いに学びたいものだ。この小都市でも東京オリンピックには非常な関心をもっているのに驚かされた。余程細心万全を期さなけれ

ば日本の恥を世界に披露しないかと心配になる。

この美しい町を有するチロル地方において、若し恋人でも出来ると、おそらく日本へは帰りたがらなくなるだろう。とにかく惜別の町、美しい町、深く印象に残る町、もう一度訪ねたい町、したがってカメラのシャッターを一番数多く切った町だった。最後に、冬季オリンピックを顧みて東京オリンピックをぜひとも国民全体の総力で成功させたいと祈念するばかりである。

（兵庫県スキー連盟常任理事）

入試地獄に思う

古林喜楽

春やよいというのに、私たちは梅雨のようにうっとうしい。ついさきごろ殺生残酷な入試をすましたばかりだからである。監督をしていると、どの学生も一騎当千の士、秀才がぞろりと揃っている。ああそれなのに、一つの教室で八割のものが落ちてゆく試験を、ここをせんどと死にもの狂いで書いているのである。とても私のように心臓の弱いものには、正視のできる様ではない。

ブラリと学生食堂へ行ってみると、ストーブをかこんで、お父さんお母さんたちが心配顔で、さも同病相あわれむかのごとく、ヒソヒソ話しを交わしていられる。近づいて聞くともなしに耳を傾けていると

「今年入らなければ、来年さ来年になると、学生が増えるので大変ですよ」。

「そうですがな。今年は昭和二十年生れのものだから、一番出生率が低いときの子供ですよ。来年からは終戦直後俄然子供がどんどん産まれだしたときの連中が受験しだすので、えらいことになりますぜ」。

「あんたとこはどこですか」

「鹿児島のラサール高校です」

「お宅は」

「山口の柳井高校です」

「そちらさんは」

「富山の高校ですがな」

やれやれはるばる九州の果てから、北陸・関東からも父兄母姉がついてきていなさる。このうちの何人が合格の喜びにひたることができるのであろうか。かつてのわが子の入試のときを思いおこして感無量のものがあった。

こんな思いで、一人でも沢山入れてあげたらの気持がうせぬときに、合否判定の会議が開かれる。先生がたの発言はきびしい。数学がこんな点でどうして入れられるかとおっしゃる。しかし総点をこれだけとっているじゃないかといってももう通じない。

入試ほどいやなものはない。こんなものは全廃してしまえと思うことしばしばである。私はときどき考える。入試のない大学を一つつくってやろうかと、志願者は全入にしておいて、入ってからドシドシ落第させる。学士さまの実力がつくまでではいつまでででも、大学に止めて仕込むのである。先生がたは、一流大学を定年退職されたおえらがたを片っぱしから丸かかえにしてしまう。

京大・阪大・神大の現役の先生がたは、みんなうちの大学の先生がたの教え子ですよ。というような一流の大学者をきら星のごとくずらりと並べるのである。先生がたの顔をみるだけでも値打ちがある。その上じかに教えてもらえるのであるから、こんな結構づくめの大学はあるまい。こんな大学を私はつくってみたいのです。みなさんいかがですか。

（神戸大学教授）

Fachheim's

ドイツ菓子

ピラミッド
ビスケット
各種ケーキ

ユーハイム

本店・三宮生田神社西隣
神戸そごう・神戸三越・国際名菓店

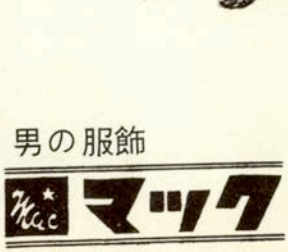
YOUNG
IVY
SHŪGŌ !

学生服は嫌いじゃないんだ
あれだって結構いかすぜ
でも年がら年中着るものじゃないな
まあ我々の礼服ってところかな

そうだな
まだ礼服に
タキシードって柄じゃない
もの　それより先きに
こうしてセーターを着るこ
とが本当に身について
からの話だよな

そう　セーターだって
立派な学生服だ　それさえ
やっと最近になって
わかったんだろう

男の服飾



三宮本店　神戸センター街　TEL ㊴ 0895
トアロード店　センター街西口　TEL ㊴ 0896
新開地店　新開地本通り　TEL ⑤ 7688
姫路店　姫路駅デパート　TEL ㉓ 1261